令和2年度学校評価結果

R2年度　前期（7月）

アンケート項目番号	重点目標		評価の観点	（A評価を記載）	担当	3者アンケート結果 評価者	A	B	A＋B	結果の考察	判定	評議員評価	今後の取組
教1-① 児６ 児７	1　個に応じた指導の充実と学力の向上	授業（主体的・対話的な授業）	「三角ロジック」を意識した話し合いを指導している	「三角ロジック」を意識して話す児童の割合（85%以上）１－①	研究 杉本	教師	42.9	57.1	100.0	自分の考えをわかりやすく伝えているかということに関しては、三角で伝えているが、理由がしっかりとみんなを納得させるものではないという様子である。特に高学年では自分の考えに自信がもてていないようなときもあるため、一部の評価が下がっている。	B	A 49.0	もう一度「三角で伝える」意味を確認する。わかりやすくという部分は、聞いている人にとってわかりやすい話し方の順序である。2学期の始めの1，2週間は「三角で伝える」話し方を一人一人の児童と確認していく。
			相手に伝わる声で話したり、自分の考えと比べて相手の考えを聞いたりしていますか	できている⑥		児童	37.9	48.3	86.2				
			自分の考えをわかりやすく伝えていますか。（三角で伝えようとしていますか。）	できている⑦		児童	34.5	44.8	79.3			A＋B 91.7	
						平均	38.4	50.1	88.5				
教1-② 保３ 児10		授業（深い学びへの工夫）	深めの発問リーフレットを活用し「★思考を深める発問」を設定している。	授業の中で設定している（80%以上）１－②	研究 杉本	教師	25.0	75.0	100.0	授業がわかりやすいことは最も重要である。わかりやすいことは学習意欲の向上にもつながると思われる。	A		今後CD評価の児童に対しての支援はそれぞれの児童や教科によっても異なると思うが、授業では言葉だけでなく、図、写真、動画などを活用し、言葉と実際の物事が結びつくようにしていく。
			学校は，分かる授業づくりを行っている。	できている③		保護者	34.5	62.1	96.6				
			授業はわかりやすいですか。	できている⑩		児童	69.0	27.6	96.6				
						平均	42.8	54.9	97.7				
教1-③ 保５		基礎学力の確実な定着	朝学習を計画的に行うことができている。	児童自身がまとめや振り返り（適用問題）を行った授業（90%以上）１－③	研究 杉本	教師	80.0	20.0	100.0	朝学習の計画通りに進められている。	A		曜日で学習内容を固定することにより、計画的に漢字などは進められている。2学期もこの計画で行うが、必要に応じて内容を変更していく。
			学校は，計算や漢字等，基礎基本の定着を図るために授業の工夫を行っている。	できている⑤		保護者	31.0	62.1	93.1				
						平均	55.5	41.1	96.6				
教1-④ 保７ 保10 児８		学習規律の徹底	45分の授業時間を確保するタイムマネジメントを行っている。	確保している１－④	研究 保健 英	教師	55.6	44.4	100.0	保護者、教師の評価は高かった。児童の姿勢についての自己評価は高くはなかった。授業中や給食中の様子からも、悪い姿勢が習慣化している児童も見られるため、指導が必要と考えられる。	A		引き続き、タイムマネジメントや学習規律の指導に取り組む。また、姿勢については、授業中や給食中など様々な場面で声掛けをして児童に正しい姿勢を意識させる場面を作り、習慣化できるようにする。
			学校は，子どもたちに正しい姿勢，話す・聞く態度など学習規律の指導を行っている。	できている⑦		保護者	24.1	65.5	89.6				
			学校は，食育や歯磨きなど，健康についての指導を行っている。	できている⑩		保護者	43.3	53.3	96.6				
			正しい姿勢で学習していますか。	できている⑧		児童	48.3	31.0	79.3				
						平均	42.8	48.6	91.4				
教1-⑤ 保４ 児９		考えを書かせる指導	キーワードをもとに条件設定してまとめを書いたり、自分なりの気づきや課題を振り返りに書く指導をしている。	している１－⑤	研究 杉本	教師	37.5	62.5	100.0	自分で考えやまとめを書くという気持ちは児童はもっている。教師と児童のA評価に開きがあるが、児童は「書けば〇」という意識があり、書いた内容までは考えていない児童が多いと思われる。	A		学力向上とも関わるが、自分の考えやまとめを書く時には、落としてはならないキーワードや用語などを入れた文が書けるように指導していく。また、授業中に自分が考えたことや気づいたことも「メモ」のように書き残していくことも振り返りを書く時に役立ってくる。
			学校は，考えを書く指導を行っている。	できている④		保護者	37.9	55.2	93.1				
			自分の考えをノートに書いていますか。	できている⑨		児童	71.4	25.0	96.4				
						平均	48.9	47.6	96.6				
教1－⑥ 保６ 保2－１ 児１ 児２		家庭学習の習慣化	自学も含め，学年や個人に応じた（内容・時間）家庭学習の指導をしている。	している１－⑥	研究 杉本	教師	100.0	0.0	100.0	家庭学習に関しては学年に応じた内容が行われている。	B		家庭学習に関しては、基本的な内容の定着や学習習慣の確立のために今後も行っていく。また、学力向上プランの「読書習慣をつける」というためにも平日も宿題に読書を入れていく。
			学校は，児童が家庭で勉強する習慣が身につくよう指導している。	できている⑥		保護者	24.1	69.0	93.1				
			お子さんは家庭学習に取り組んでいる。	できている2－①		保護者	27.6	44.8	72.4				
			宿題を忘れずにしていますか。	できている①		児童	58.6	27.6	86.2				
			家で学年×１０分程度（１年生は２０分）の学習をしていますか。	できている②		児童	58.6	37.9	96.5				
						平均	53.8	35.9	89.6				
教1－⑦ 児11		外国語活動の充実	「Can-doリスト」をもとに児童のつけたい力を明確にし、授業の中で評価を行う。	90%以上の授業で行った１－⑦	外国語 杉本	教師	60.0	40.0	100.0	ALTと打ち合わせを行い、学習を進められている。児童は習った英語を使った友達との会話は楽しんでいる。	B		高学年は週2回、中学年は週1回の外国語の授業であるが、単語はともかく、文章になると定着するのは難しい。1時間の内容も多く、英語を聞くことは増えているが、話す時間があまりとれていないので、内容を工夫し、発音練習や会話練習を取り入れていく。
			外国語活動では，習った英語を使って進んでコミュニケーションをとろうとしていますか。	できている⑪		児童	44.8	31.0	75.8				
						平均	52.4	35.5	87.9				

教1-⑧ 児14		ICTの活用	タブレットやパソコン，大型テレビなどＩＣＴ機器を活用している。	積極的に活用している（週1回以上）　１－⑧	情報 本山	教師	42.9	28.6	71.5	オンライン授業への取り組みもあり，ICT機器を活用する機会が増えた。週に1回以上の利用を今後はより意識していく。	B			研修会を通して，ICT機器の利用についての理解を深める。 情報教育年間指導計画に沿った活動をICTサポーターと連携して行う。
			タブレットやパソコン，大型テレビで授業をするとわかりやすいですか。	できている⑭		児童	72.4	27.6	100.0					
						平均	57.7	28.1	85.8					
教2－① 保14	2 豊かな心とたくましく生きる力の育成	道徳科の授業の充実	児童が自らの成長を実感できるよう、研究の重点を意識した授業改善に取り組んでいる。	月3回以上は取り入れている２－①	道徳 神村	教師	40.0	60.0	100.0	保護者の肯定的評価は、昨年度前期と比較すると下がった。道徳だより発行回数が減ったこと、昨年度発行していた全校版道徳だよりの発行をやめたことが原因と思われる。	A	A 48.0 A+B 92.7		1学期に発行できなかった学級に、道徳だよりの発行を依頼する。全校版の道徳だよりについては、昨年度とは様式と発行回数を変更する形で、行いたい。
			学校は道徳授業の様子を保護者に伝えている。	できている⑭		保護者	48.3	37.9	86.2					
						平均	44.2	49.0	93.1					
教2－② 保9 保2－2 保2－5 児４ 児５		基本的な生活習慣の確立	下校後の家庭での時間の使い方を指導している。	いろいろな場面で指導している２－②	保健 英	教師	50.0	50.0	100.0	睡眠時間の確保について3者とも評価は高い。しかし、メディアについては、児童の自己評価は高いが保護者の評価は低い。まだ、児童のメディアに関する認識や付き合い方が不十分と考えられる。	B			すくぐんチェックやメディア週間等で定期的に現状を把握しながら、集団と個別に指導する。また、学校保健委員会でメディアについて取り上げ、危険性や付き合い方について学ぶ機会を作る。
			学校は，児童が早寝により睡眠時間の確保ができるための取組を行っている。	できている⑨		保護者	43.3	50.0	93.3					
			お子さんは早寝により睡眠時間を確保している。	できている2－②		保護者	23.3	60.0	83.3					
			お子さんは約束を決めてメディアと付き合っている。	できている２－⑤		保護者	10.3	48.3	58.6					
			早寝（１０時前）・早起き（７時前）をしていますか。	できている④		児童	69.0	20.7	89.7					
			おうちの人と相談し，約束を決めて，ゲームやテレビなどのメディアにふれていますか。	できている⑤		児童	58.6	27.6	86.2					
						平均	42.4	42.8	85.2					
教2－③ 保8 保2－4 児12		あいさつの習慣化	どこでも元気よく先あいさつをするよう指導している。	いろいろな場面で指導している２－③	生指 古田	教師	80.0	20.0	100.0	児童・保護者ともに，挨拶は十分にできていると感じている。ただ，地域の方々への挨拶が，気持ちのよいものになっているかは少し疑問である。	A			９月の生活目標に合わせて，学校だけでなく地域でも気持ちのよい挨拶をしようという意欲につながる取り組みを行う。
			学校は，心を伝えるあいさつができる子になるよう取り組んでいる。	できている⑧		保護者	37.9	55.2	93.1					
			お子さんは家庭や地域でのあいさつを行っている。	できている2－④		保護者	41.4	44.8	86.2					
			気持ちのよいあいさつしていますか。（先あいさつ，目をみてあいさつ，元気のよいあいさつなど）	できている⑫		児童	65.5	24.1	89.6					
						平均	56.2	36.0	92.2					
教2－④ 保11 児13		いじめ等への対応	授業の中で、どの子にもよさを認める、ぬくもりのある指導をしている。	どの子の良さも認める指導をしている２－④	生指 古田	教師	66.7	33.3	100.0	保護者は，学校の対応に概ね納得している。児童の評価も高い。しかし，人を選んで接していたり，他者意識が希薄だったりする面が見られる。	A			今後も，アンケート実施を継続する。また，各担任が，日頃の様子に気を配り，児童が安心して生活できる環境を整えていく。そして，些細なことでも保護者との連絡を密にとる。
			学校は，いじめや児童の問題などに，適切に指導・対応している。	できている⑪		保護者	51.7	37.9	89.6					
			なかよし班の仲間や友だちと仲よく助け合っていますか。	できている⑬		児童	58.6	31.0	89.6					
						平均	59.0	34.1	93.1					
教2－⑤ 保12		心の教育	ねらいを明確にして，充実した交流活動を行っている。	行っている２－⑤	生指 古田	教師	16.7	66.7	83.4	コロナウイルスの影響から，でんでこ太鼓等の伝統文化を通した交流活動を実施することができなかった。	B			コロナウイルスの流行状況に合わせて，可能であれば，でんでこ太鼓に触れる機会を設定する。そして，「上学年から下学年への伝統の継承」をねらいに据え，活動に取り組ませる。
			学校は，　地域の伝統や文化を大切にし，児童の豊かな心を育成するための取組を行っている。	できている⑫		保護者	48.3	44.8	93.1					
						平均	32.5	55.8	88.3					
教2－⑥		異学年交流	なかよし班活動を通して，児童の思いやりある心を育てている。	なかよし班活動に進んで参加しており、児童の心も育っている２－⑥	特活 杉本	教師	71.4	28.6	100.0	1学期はなかよし班活動は2回しか行うことができなかったが、それぞれの活動を児童は楽しんでいた。	A			感染症のことも考えながら、なかよし遊びなどの活動を実施していく。後期は5年生が中心となっていくので、6年生のアドバイスも受けながら活動を引っ張っていけるようにしていく。 掃除は高学年中心にどの児童もしっかりと行っている。
						平均	71.4	28.6	100.0					
教2-⑦ 保2－3 児３		読書活動の推進	図書館利用計画に基づく活用を行っている。	90%以上は活用している２－⑦	読書 古田	教師	66.7	33.3	100.0	読書週間の定着について，保護者と児童の間で大きく差がある。保護者の中では，読書をしているように見えていない。	B			児童に，読書カードの記入をさせる。また，「わたしの本だな」の感想の書き方も指導する。 そして，家庭学習で週2度読書に取り組ませることを学年便りで保護者に伝え，協力を促していく。
			お子さんは親子読書、週末読書など家庭での読書に取り組んでいる。	できている２－③		保護者	20.7	41.4	62.1					
			家庭で読書（親子読書、週末読書）をしていますか。	できている③		児童	75.9	17.2	93.1					
						平均	54.4	30.6	85.1					

教2-⑧ 児15		体力の向上	１校１プランを意識した運動（長座体前屈，持久走）を授業等で取り組んでいる。 進んで体を動かしていますか。	週2回以上取り組んでいる２－⑧ できている⑮	体育 本山	教師 児童 平均	0.0 69.0 34.5	100.0 10.3 55.2	100.0 79.3 89.7	新型コロナウイルスの影響もあり，１校1プランを意識した運動を週に2回以上行うことはできなかった。	B		「外遊びデー」や「かけ足運動」への積極的な参加を促し，児童の体力向上に努める。 1校1プランについても，新型コロナウイルスの情勢に応じて，適切な距離をとって行う。
教2-⑨		自然とのふれあい	「自然ふれ合いタイム」や各教科における自然環境の積極的な活用。	学級で月２回以上の活用をしている２－⑨	教務 神村	教師 平均	42.9 42.9	57.1 57.1	100.0 100.0	「自然ふれあいタイム」は雨天のため全て中止となったが、肯定的評価100%となったのは、授業で活用を行ったためと思われる。	A		「自然ふれあいタイム」は毎月１回のペースで実施できるようにする。雨天順延できるよう、計画する。
教3-① 保２	３ 家庭・地域と連携した信頼される学校づくり	地域に開かれた教育課程	保護者や地域人材を日常的な授業や行事，体験活動などで活用している。 学校は，保護者と連携・協力した学校づくりを行っている。	計画に従い活用している（90%以上）３－① できている②	教頭	教師 保護者 平均	14.3 33.3 23.8	42.9 60.0 51.5	57.2 93.3 75.3	今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、これまでは、保護者や地域人材を活用した取り組みを行うことができなかった。	C	A 37.5 A＋B 87.7	今年度は、学校安全総合支援事業（災害安全）の委託を受けていることもあり、2学期以降、コロナウイルスの感染状況に注意しながら、地域人材や保護者の協力を得て、防災教育等、連携して、積極的な人材活用に努めていきたい。
教3-② 保１		保護者･地域との連携	ホームページや通信，連絡帳等を通して学校の様子を知らせている。 学校は，教育活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	知らせている３－② できている①	校長	教師 保護者 平均	71.4 33.3 52.4	28.6 56.7	100.0 90.0 95.0	新型コロナ感染対策により、主な行事等が実施できなかったこともあり、昨年度までよりホームページの更新が少なかった。	A		今後の感染状況にもよるが、授業参観等、保護者が来校できることが少なくなっているので、普段の授業の様子、児童の作品など、積極的にホームページに載せていき、学校での様子を伝えていく。
教3-③ 保13 保2－6		危機管理	危機管理意識を持って児童への指導を行い，週案にも記載している。 学校は，避難訓練や交通安全指導など，安全管理への対応が取られている。 お子さんは安全に登校し，不審者や事故から身を守よう気をつけている。	常に週案にも記載している３－③ できている⑬ できている2－⑥	教務 神村	教師 保護者 保護者 平均	14.3 56.7 37.9 36.3	71.4 43.3 55.2 56.6	85.7 100.0 93.1 92.9	学校の指導に対する保護者の肯定的評価は、昨年度に引き続き100%である。しかし、週案への記入は十分ではない。	A		危機管理とは「起きてしまった危機に対する状況管理」であり、リスク管理とは「起こる可能性のある危機に備えること」とである。週案への記載事項は学習活動によって、ある程度決まったものがあると思われる。記載事項を確認することで、危機意識を高めたい。
教4-①	４ ＰＤＣＡサイクルを意識した、組織的な学校運営	取り組みの改善	ＰＤＣＡサイクルを意識して取組を提案し，改善している。	提案、改善の取り組みをしている４－①	教務 神村	教師 平均	37.5 37.5	62.5 62.5	100.0 100.0	肯定的評価100%だが、昨年度と比較するとA評価が下がっている。1学期は中止になった行事が多いことも一因として考えられる。	A	A 43.8 A＋B 100.0	2学期は限られた時間の中で、授業と行事を実施していくことになる。負担軽減、時間短縮を図ることができるよう、改善の視点として「スリム化」を掲げ、次年度につながるPDCAを実施する。
教4-②		働き方	勤務時間を意識した効率的な働き方をしている。	１カ月の時間外勤務時間の平均が60時間以下４－②	教頭	教師 平均	50.0 50.0	50.0 50.0	100.0 100.0	職員の意識改革や校務支援システムの効果的な利用により、業務の全体量を減らすことに努め、業務の効率化・省力化を進めることができた。	A		今後も、職員の意識改革を進め、業務の効率化・省力化に努めるとともに、仕事量を平準化し、仕事が一人に偏らないよう努めていきたい。また、定時退庁日、ノー残業デーの実動、校務支援システムや地域人材の活用、研修会の持ち方等をさらに工夫して超過勤務の削減に努めたい。

＜評価者＞保護者、児童、教師